

令和元年度 堀江中学校のあゆみ

—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●全国学力・学習状況調査結果

・平均正答率については全国平均より数学が1.2ポイント上回り、国語は2.8ポイント、英語は2.0ポイント下回った。平均無解答率は全国平均より全教科において下回り、最後まであきらめずに解答している状況が見られた。

＜国語＞ 全国と比較して「話すこと・聞くこと」領域において7.1ポイント、「書くこと」領域において5.5ポイント下回った。同領域で大阪府・大阪市よりも2.9～3.8ポイント下回った。「読むこと」は全国より2.1ポイント、府よりも0.4ポイント、市よりも0.6ポイントわずかに上回った。

＜数学＞ 全国と比較して、「関数」領域において1.3ポイント下回ったが、「数と式」では1.2ポイント、「図形」では0.8ポイント、「資料の活用」では2.6ポイント上回った。

＜英語＞ 全国と比較して、全ての領域で下回り、特に「聞くこと」領域において3.0ポイント下回った。「読むこと」は市よりも0.6ポイント上回ったが、それ以外の領域では0.1～2.4ポイント下回った。

・生徒質問紙については、全国・大阪市と比較しても全体的に肯定的回答の割合が低かった。特に、全国や大阪市より低く課題が残った項目として、32「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」が51.3%で全国より-21.5ポイント、33「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」は-18.6ポイント、34「総合的な学習の時間で自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」が-27.3ポイント、35「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」は-33.7ポイント、36「話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」は-25.8ポイント等、全国との差が大きく、大阪市よりも下回っている。今後、改善項目を意識して授業改善および全ての教育活動を推進していかなければならない。

・教科別の質問事項では全国と比較して、49「数学の勉強が好き」は6.6ポイント、51「数学の授業内容はよく分かる」は11.5ポイント上回った。英語の質問事項では全国より上回る結果は得られなかったが、59「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」は1.8ポイント、25「外国の人と友達になったり、外国のことについても知りたいと思う」は「当てはまる」と回答した生徒が3.1ポイント上回った。英語については現在の地点では苦手でも、将来の生活に向けて興味関心を持っているということがうかがわれる。

・23「地域行事への参加」は-29.7ポイント、24「地域や社会をよくするために何か考える」は-16ポイントと低いことから、地域とのかかわりが薄いことが考えられる。

●中学生チャレンジテスト(3年生)結果

＜成果＞

・平均点は大阪府と比較して、国語-0.1点、社会+4.0点、数学+1.7点、理科+1.0点、英語-0.2点であった。国・英は府平均点よりもわずかに下回っているが、全国学力・学習状況調査の時点と比較すれば、徐々に学習の成果を高めている。領域で際立ったのは社会の地理的分野で3.7点上回った。平均無解答率は府平均より全教科において下回り、最後まであきらめずに解答している状況が見られた。

＜課題＞

・国語は自分の考えを書くときその根拠を明確にして記述させること。社会は中間層の生徒の得点力をさらにアップさせ、歴史的な分野を強化すること。数学は基礎的な問題の正答率を上げること。観察・実験の分野の力をつけていくこと。英語は学力が中間よりも低い層の生徒に基礎的・基本的な学力を定着させていくこと。全体的に、生徒アンケートの肯定的な割合を増やしていくことが課題である。

●大阪府中学校3年生統一テスト結果

＜成果＞

・平均正答率は大阪市と比較して、国語は+1.4、社会は0.8、数学は+1.4、理科は+2.5、英語は+0.1ポイントと全ての教科で上回った。

＜課題＞

・国語は「漢字の読み書き」、社会は「現代社会(公民領域)」、数学は「二次方程式」、理科は「火山」の正答率が低い。

・英語は特に「英作文」の正答率が市平均正答率より4.7～5.2ポイント低く、外国語表現の能力、書くことに関しての学習を強化することが課題である。

令和元年度 堀江中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【今後に向けて】

- ・堀江中学校「5つの取り組み」をもとに、授業規律の確保を含めた生活指導の充実および基本的な生活習慣の確立に取り組む。全教職員の共通理解・情報共有を基本として、生徒一人一人の状況に応じた適切な指導をきめ細やかに丁寧に行う。
- ・各種テストおよびアンケート調査結果をもとに生徒の学習状況を分析し、各教科で課題改善に向けた授業改善に取り組む。また、漢検・英検・文章検等、外部の検定を活用して、生徒個人のキャリアを積ませ、さらなるレベルアップを図る。
- ・学校独自で導入しているWeb教材「ラインズeライブラリ」を自主教材の一つに位置付け、タブレットやスマホ・PCから学校でも家でも自主学習ができる環境を活用させる。
- ・**国語**の授業では、学習したことを普段の生活の中で話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用できたり、目的に応じて自分の考えを話したり書いたりすることができ、考えが上手く伝わるように根拠を示すなど、話や文章の組み立てを工夫すること等に取り組む。
- ・**数学**の授業では、解答する時に数学的な言葉や数、式を使って分かりやすく説明ができるようにすることとともに、発展的な問題を多く取り入れ応用力を身につけさせるよう演習の時間を確保する。
- ・**英語**の授業では、基礎的な学力を高める学習とともに、英語を聴いたり読んだりして概要や要点をとらえる活動、自分の考えや気持ちを即興で英語で伝え合ったり書いたりする活動等を取り入れる。
- ・**社会**の授業では、現代社会(公民領域)の学習を充実させる。また、東書ライブラリーや問題集を活用した反復練習、ICT機器を活用し、理解しやすい教育環境の下、学力の定着を図る。
- ・**理科**の授業では、今後も実験結果から考察してグラフや表にまとめ、思考を整理する習慣とともに文章表現ができる力をつけていく。特に計算を伴う演習問題を多く取り入れ、生徒同士が教え合い、話し合う場を増やし、解き方について論理的に説明できる習慣を身につけさせるようにする。